

「ロッキーの2週間面談」

ロッキーがケアをスタートしてから早2週間が過ぎました。今日のご両親も来訪され、いさどんと面談する機会を持ちました。

いさどん：

2週間ここで過ごしてみてどうですか？

ロッキー：

数日前からの大きな変化として、とりあえずここでは勉強するのをやめ、農作業に出て、心を立て直すことに専念しようと思っています。

いさどん：

先日そのことを同室のいさおちゃんから聞いた時に、「なかなか賢いな。おぬしやるな」と思いました（笑）。

ロッキー：

最初は、受験勉強もしながらケア滞在をしていこうと考えていたんですけど、「なぜ自分はここへ来たのか」と考えた時に、「自分の心を整えるために来たんだ」と再確認出来ました。今は、午前も午後も畑や田んぼで農作業をさせてもらっています。色々なチームに入れてもらうことで違う人と話が出来るとし、貴重な体験をさせてもらっていると思っています。今日も午前畑で、午後は田んぼに行ったんですけど、そんな感じで毎日を過ごしています。

いさどん：

そろそろそういうことをこちらから提案しようと思っていたのに、先にやってくれて、こちらのすることがない（笑）。

ロッキー：

いやいや（笑）、いさどんに言われた通り毎日日記をつけていたのですが、農作業より勉強している時の方が実りがない時間だなと気づいたので、いさおさんにも相談して一日農作業に出ることにしました。

いさどん：

最初の面談でも触れた話だけれど、ご両親もあなた自身もまだ気づいていない、あなたの中にある可能性が今、あなたの中から出てきているよね。自分の内なる声を聞く、自分の気づきを発掘していけば、バランスの良い考えを持てる人であるわけだ。今後は、自分の中から湧いてくることを行なって自信をつけられればいいね。

何でもそうだけれど、その人の姿勢が現れるものだから、姿勢が出来ていないのに勉強しても、時間がただ過ぎるだけなんだよね。

ロッキー：

そうですね。本当に時間だけ過ぎていたという感じです。確かに集中出来ている時もあったのですが、それよりは畑に出ている時間の方が充実しており、ここに滞在している意義を感じることが出来たので、今はそういう時間を大切にしていこうと思っています。

いさどん：

そうやって幅を広げていくことが大切です。つまり、色々な目線を持って自分を観るということです。そういうことをあなたに伝えたいと思っていました。人生は長いから、一年浪人したということは良い充電期間とも言えます。まずは、今の本分である自分の心をしっかりと立て直し、けじめをつけてから集中して勉強すればいい。それからでも遅くないからね。

ロッキー：

僕もこのまま社会に出たら、別の形で絶対行き詰まっていたなと感じています。それを今は、浪人というある意味軽い出来事をもたらしていますが、これが進んでいくと、会社でもっと辛い目に遭っていたかもしれない、と思うと良い機会だったと思っています。

自分の中では、気持ちを切り替えて農作業を一日やるようになった数日前からが、本当の意味でのケア滞在が始まったのだと思っています。それまでは勉強に対する執着が強かったのですが、4日前から畑に出るようになってやっと、木の花のケアとしてここにいるなという実感はしています。

いさどん：

勉強も、良い成績を取るためだけに勉強するのではなく、将来の自分の生きる糧にするためのものだから。順調良く進んでいると思います。

お父さんとお母さんは、息子さんを見た感じはどうか？

お父さん：

落ち着いてきている感じですね。

いさどん：

最初の1週間は自由に過ごしてもらい、その後、私はその人に応じたメニューを考えるのですが、彼の場合、既に自分でメニューを考えているんですよ。私からいつ提案しようかなと思っていたのですが、自分から自主的に気づいてメニューを考えていました。

お父さんとお母さんにもお話したのですが、自分の中から湧き出る大事を気づく力がこの人にはあるのです。では、それがなぜ今まで出てこなかったのかというと、「親から見た子供だから」と、親の側から見た指導をしてきたのでしょう。しかし、彼の中から湧き出てくるものをもうちょっと信じていただくと、彼はバランスの良い考え方を持っていますので、彼は自分の中から見つけ出していきます。今は彼の中から新しいものが出ているように思うかもしれませんが、元々それは彼の人間性としてあったものです。私はそれが彼の中にあるということに最初から気づいていたものですから、それを引き出したいと思っていました。

ロッキーも、そのことに気づき出したでしょ？

ロッキー：

そうですね。。。自分の考えが色々な方面に湧いてくるようになったので、それを外に表現していき、これからの自分の人生に活かしていければいいなと思っています。

いさどん：

彼の言葉は非常に的を射ています。的を射ている捉え方が出来てきているものですから、このトレーニング期間が終わったら、本人に今後の生き方を任せていけばいいと思います。そのことについては、いさおちゃんが感心してしまてね。いさおちゃんは優秀なのですが、そういう部分は足らなくて何年もかけてここで身につけてきたのです。18歳の彼がそれをさっと受け取っていくわけですから、感心しきりのようですね。

いさおちゃん：

本当にそうですね。僕は部屋に帰って寝る前に彼と二人で話すことがあり、ざっくばらんに色々な話をするのですが、お世辞ではなく、彼は本当に物事をよく捉えていますし、鋭い観察眼も持ち合わせています。バランスの良い心をしているなと思っています。

最近感心したのは、「ここで勉強していてどうなのだろうか？」と自分から疑問が湧いてきたことに、すごく感心しました。僕は一応先輩なので、彼の前では冷静に「それは良いことだね」と伝えましたが、心の中では「お見それしました！」とっていました（笑）。そこは本当に彼の素質だなと思いますし、今まで僕も色々なケアの人に出会ってきましたが、彼のような人はなかなかいないと思っています。お世辞なしに素晴らしいと思います。

いさどん：

普通の人には、そういったバランスの良いものの捉え方をすることがなかなか難しいのですが、彼にはそういう能力が備わっています。それを信じて本人に任せていただければ大丈夫です。今後、お父さんもお母さんも彼からアドバイスをもらうくらいになる、と私は思っています（一同、笑）。

ですから、お子さんの心配をされたり、将来のことを色々と考えていただくのは、親から子供に対する愛情だとは思いますが、この人の人生はこの人に任せてあげればいいと思っています。私も長年人を観てきましたので、人を観る目はあります。人が気づいていないものまで観ていますので（笑）。本人もそのことに今まで気づいていませんでしたが、そのことをしっかりと認識し、自信をつけてもらえれば良い人生が歩めますからね。

お父さん：

今の時代というのはある意味何でもありで、自分の可能性で色々なことが出来ると思うんですよ。昔だったら、「これは普通の社会ではおかしいよ」ということが、今はどんなことをしても批判されず、人の目を気にしなくていい時代になりましたよね。

いさどん：

私たちの時代は、どちらかと言うと、「こうして、ああして、これが成功」という時代でしたよね。すごくエネルギーにやってきましたけれど、今それが何だったのかといたら、そうやって今までもたらされてきた負の部分をこれから解決していく時代でもあるのです。

そして、これからはこういう人たちのような感性の時代です。損か得かで得した人たちが勝ち上がっていく時代ではなく、損得なしに本当に大切なことを成していく時代です。何が大切なのか言うと、世の中のために人々が大切なことに気づいていく時代です。

前回も世代の話をしましたけど、今の20代、30代の人たちは、社会の中で痛んでしまったものをどういうふうに回復させていくのか、と考える行動する人たちです。これもまだ頭を使っている世代です。

しかし、次の世代のこの人たちは感覚の世代です。この人たちの計算しない感覚に将来を任せる時代が来ます。そういう感覚の人たちに、親や学校の先生が「物事はこうあるべきだ」と教育していくと、それこそトラブルの発生源になったり、病気になるようなこともあります。

ですから、私たちもそういう人たちから学びをいただくくらいのつもりで接していかないと、この世代の人たちの能力を引き出すのは難しいものです。

お父さん：

そういうことを感じていても、親という立場だと、どうしても自分の考えを押しつけてしまうんですよ。

いさどん：

それは、皆やることですよ。ですから、自分の中にしっかりとブレーキをかけて「見守らせていただきます」という姿勢で待つことです。言い方を変えれば、「あなたの生き様を見せていただきます」くらいの姿勢でいれば、この人らしさが出てきます。

お父さん：

今の時代は好きなことをやってもいいと思っはいるんですけど、親の立場だとどうしても。。。

いさどん：

口を出してみたり、心配してみたり、ついつい「ああしなさい、こうしなさい」と枠をつくってしまうのですよね。人から観えないようなことをやるというのが開拓者ですから、この人は開拓者の姿勢で取り組んでいけば、きっと良い芽が出ると思っています。先が楽しみですよ。彼は能力が高いですからね。

お父さん：

私も息子を観ていて、いざという時の集中力はすごいと思っています。

いさおちゃん：

彼と話していてすごいなと思うのは、彼の学び方のスタイルです。自分でどんどん疑問を持って、それをわかりそうな人に聞きに行き、それを自分のものにしていく。彼がこれから受験勉強をしていく時に、そういうスタイルで教えてくれるところがあったらいいなと思っていました。大手の予備校のように知識をどんどん詰め込んでいくスタイルよりも、自分で疑問を持ってそれに答えられる人がいる私塾のようなスタイルがいいなと思いました。その話を彼にしたら、「実はそういう人が既にいるんです」と言うんですよ。僕はそれを聞いて、「やっぱり彼はすごいな」と感心しました。

いさどん：

そういうスタイルが彼に合っています。彼は受験については失敗したかもしれませんが、大学に行ってから伸びると思います。気分は病気から抜けてきたようだしね。

ロッキー：

そうですね。落ち着いて来ています。

いさどん：

自分の心の持ち方によってコントロール出来るものだ、と気づかないとね。そこがスタートだから。

ロッキー：

はい。それまでは、ここで勉強をしても家にいる時と変わらないような生活をしていて、ただだらしていたと思います。やっと4日前から毎日農作業にも出られるようになって、しっかりと毎日をごさせているという充実感があります

いさどん：

それも普通は、自分から提案するのではなく、こちらが伝えてやっと身につけるものだけれど、この人は自分でそれが出来ています。

お母さん：

ここに来る前は、本当に薬漬けで、薬が息子の精神状態を悪くしているようでした。息子も自暴自棄になっていました。「どうして薬を飲んでも良くなるのだろうか？薬を飲むと逆に頭がぼーっとする」と言いながら、心も体も堂々巡りで、こちらもどうすることも出来ない状況で困っていたところでした。

今、目が生き生きしている息子を見ると、本当に感謝の想いで一杯です。

お父さん：

最近、心療内科も結構混んでいて、1ヶ月先まで予約が取れない状態なんですよ。

いさどん：

それもまた困った話ですね。

お父さん：

私たちとしては、病院に行ってお医者さんに診てもらうことは一つの安心材料にはなっていますので。

いさどん：

親からすると、「ちょっと心配だから、薬を飲んで安定させた方がいいんじゃないか」と思うかもしれませんが、それは見栄えのことで、根本的な解決にはなりませんからね。それに、薬を飲んで安定させるということは、それをずっと継続させないといけないことになってしまいます。

お母さん：

副作用がすごく怖いというか。

いさどん：

逆に言うと、副作用が出るということは良いことです。薬が合ってしまって、副作用が出ない方がかえって怖いんです。副作用が出ると、そのことによって現状を振り返るチャンスにな

るわけですから。それだけ、体に抵抗力があるということですからね。

お父さん：

そういう考え方もあるんですね。

いさどん：

問題事というのは良いことなんです。問題として出て来ないことの方が中にそれを封じ込めることですから、その方が問題です。問題事があるということは、そのことに気づくチャンスですから。色々な治療を受けながら疑問を持っていたということは、それだけ免疫力があったということです。副作用が出るということは体に免疫力があるということでもあり、心が疑問を持つということは心の免疫力があるということです。

ロッキーもこれからは自信を持って、自分の中から湧き出してくるものに信頼を持つことが大切です。今まではその部分が十分に発揮されず、人との違いで悩んだり、誤解が生まれたこともあったよね。これからは、自分の中から湧き出してくる気づきを素直に表現することによって、バランス良く事が成っていく仕組みをマスターしてもらえればいいと思います。これは誰かに教えてもらうことではなく、自分で身につけていくものだから、ここにいる間に色々と学んでいって下さい。

私たちは生きているのではなく、生かされているわけだから、常に「いただく」精神にならないと物事の本質が見えません。社会で生きていく上で、病気でも人間関係のトラブルでも、全部自分で答えを出そうとするから、自分の枠の中に答えを閉じ込めてしまいます。そこでは学ぶことにならず、人は成長しません。そうではなく、「物事の顛末を見せていただく」という精神になった時に、自分の枠を超えた結果をもらうことが出来ます。その時に初めて人は成長します。そこでは感動の連続です。自分の考えていることが現実にも起こっても、大して感動にはなりません。単に予定通りということですから。

私はそうやってものを観ているので、いつも自分の知らない世界が展開されます。考えも及ばないような人と出会い、新しいものがやってくる。だから、人生は面白いんです！ロッキーの世代はそういう発想の世代です。私はちょっと早すぎたもので、なかなか人に理解されなかったですが（笑）。

ロッキー：

ここに来て色々なことに気づかされましたし、ここの人たちは本当にすごい経験をしている人が多いですね。だから、そういう話を少しでも聞いて、最終的にこのファミリーになったということは、この考え方に即しているということなので、一体どうやってその人たちがこの考え方に順応していったのかということを知りたいと聞いていくと、すごく面白いんです。面白いと言ったら、失礼かもしれませんが。。。

いさどん：

全然失礼なことではないよ（笑）。今の話を聞くと、彼はここにケアで来ているのか、それとも、将来大学に行っておこなう研究を彼は既にやっている可能性もある（笑）。彼には高い能力があると思います。それを親は気づかないで自分たちの枠で見ている。そして、本人も気づかなかった。ここは発掘の現場です。一言一言、本人は気づかずに話していますが、私たちからすると感心することばかりです。

彼にとって何が得意なのかは、彼自身がこれから気づいていくことだと思いますが、自分の心のバランスが崩れて、こういうきっかけをもらったのですから、統合的に人の心を観ていくような学問を大学で勉強したら良いと思います。あなたは心をバランス良く客観的に捉える力があるのだから。

ロッキー：

まだ自分ではよく気づいていないですね。今までは自分に自信もなかったし。

いさどん：

わがまま放題の自信は持つべきではないけれど、バランスの取れた自信は持つべきです。これから自信を持って下さい。あなたは人に対して結構気を使う方だから、そのバランスは取れます。今までは気を使いすぎて問題だったくらいだから。

ロッキー：

はい（笑）。

いさどん：

そんなに気を使うことはないよ。自分の中から湧き出てくるものをストレートに表現し、人としっかりとキャッチボールが出来れば良いのですから。

ということで、順調に進んでいます。私たちとしても、ケアとして彼を指導するというよりは、彼が自分で自分の中の気づきを引き出していくための場所を提供しているだけだと思っています。ぜひ、彼らしく開花して、世の中のためになる人に成長してもらえたらいいと思っています。